

稲作は、昔から私たちが生きる上で最も大切な生業として重視され、それによって得られるお米は、神様が食される神聖な食物であると同時に、生きてゆく糧として、いわば「生命の根源」として、今日まで大切に受け継がれてきました。国学者の本居宣長も稲を「命根」、つまり「生命の根源」であると評しているように、神社でお供えされる神饌も米、

新嘗のころ

勤労感謝の日から新嘗祭の復興

続いて餅、酒と「米」を欠かすことができません。

そして日本人は、毎年の稔りの感謝を神様に「ころ」で表し、そこから「祭り」や「儀礼」などの精神文化も発展させました。「新嘗のころ」は、三回に亙る講座と収穫体験を通して、日本文化の根底にある「稲作」と新嘗祭のころを学び、私たちが忘れかけている稔りの喜びと感謝を体験する講座です。



第一回 宮中の新嘗祭

日時・平成二十七年九月八日（火）十八時三十分
講師・小野善一郎
会場・日本文化興隆財団

第二回 神宮の新嘗祭

日時・平成二十七年九月十八日（金）十八時三十分
講師・小野善一郎
会場・日本文化興隆財団

第三回 新嘗のころ

稲刈り・新嘗祭奉仕
懸粥作り・脱穀糲摺り体験など
日時・平成二十七年十月三日（土）
講師・茂木貞純（國學院大學教授）
寺田優（寺田本家代表取締役）
小野善一郎（湯島天満宮権禰宣）
会場・古宮神社（埼玉県熊谷市）



新嘗のころ 勤労感謝の日から新嘗祭の復興

第1回 宮中の新嘗祭

講師：小野善一郎（湯島天満宮権禰宜） 受講料：2,500円 ※事前申込制

新嘗祭は、天皇陛下が神嘉殿において新穀を皇祖はじめ神々にお供えになり、神恩を感謝された後、陛下自らもお召し上がりになる祭祀です。本講座は新嘗祭を知り、日本の精神文化の原点を学ぶ講座です。

日時：平成27年9月8日（火） 18:30～20:00
会場：一般財団法人日本文化興隆財団会議室

第2回 神宮の神嘗祭

講師：小野善一郎（湯島天満宮権禰宜） 受講料：2,500円 ※事前申込制

伊勢の神宮において神嘗祭は、その年の新穀を大御神に奉り、ご神徳に報謝申し上げ、皇室の弥栄、国家安泰、五穀豊穡、国民の平安を祈るもっとも重要な祭祀です。新穀感謝の心を学び、日本文化の地下水脈を探求する講座です。

日時：平成27年9月18日（金） 18:30～20:00
会場：一般財団法人日本文化興隆財団会議室

第3回 新嘗のころ

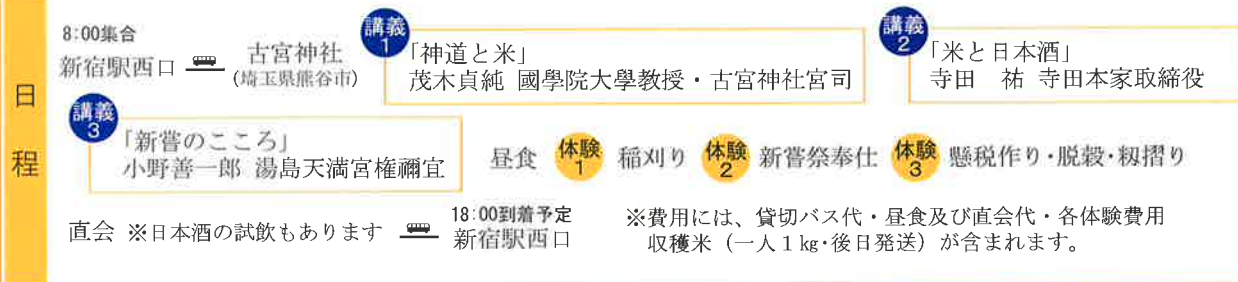
**42名
限定**

講師：茂木 貞純（國學院大学教授） 受講料：13,000円 ※事前申込制
寺田 祐（寺田本家取締役）
小野善一郎（湯島天満宮権禰宜）

神道と米／米と酒／新嘗のころ

私たちの先祖が、稔りの感謝の心から「祭り」や「儀礼」の精神文化を発達させた過程を学び、実際に稲作体験を通して新穀感謝の喜びを体験する講座です。実際に収穫するほか脱穀、粃摺り体験を行い、古宮神社で参加全員で新嘗祭を奉仕します。神宮に奉納する懸税（かけちから）も作ります。最後は直会（なおり）で、恩頼（みたまのふゆ）をいただきます。

日時：平成27年10月3日（土）
会場：古宮神社（埼玉県熊谷市）と近接圃場



バス定員、現地での受入制限などがあるため先着42名とさせていただきます。
第3回は、第1回、第2回の両講座を受講いただいた方が参加できます。
雨天でも開催します（荒天の場合は中止）。

お申し込み方法 FAX **03-3475-5805**・電話 **03-5775-1145**・インターネット
<http://www.nihonbunka.or.jp/>

- ①ファックス・電話・インターネットからお申し込み下さい
- ②ファックス・電話でお申し込みの方は、郵便払込用紙をお送りしますので期限内にお振り込み下さい。
期限を過ぎますとキャンセル扱いとさせていただきます。
- ③ご入金確認しだい受講書をお送りしますので当日持参して下さい。

郵便番号	住 所	
氏名	ふりがな	電 話
受講希望回に ○をしてください	第1回・第2回・第1回～第3回	※第3回は第1回と第2回の両講座を受講され方が対象となります。事業の趣旨をご理解いただきたくお願い申し上げます。

各回とも定員になり次第募集を終了させていただきます。

お問い合わせは：一般財団法人日本文化興隆財団

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-10 電話 03-5775-1145 FAX03-3475-5805